

第 9 回 町田市廃棄物最終処分場閉鎖等検討委員会の議事要旨

開催日時：平成 21 年 1 月 26 日(月) 19:00~21:00

開催場所：町田市リサイクル文化センター研修室

参加者：（委員）梶山 正三[委員長]，小川 由一[副委員長]，広瀬 立成，渋谷謙三，小
山宰正，大垣 雅子，木野 直美，新井 堅司，高木 康夫，フォーク エリック，
小林 美知，中川慶子，粕谷 羊三，塩路正太
（事務局）鈴木 和夫，加藤 貴一，内山 重雄，河西 秀悟，加藤 保，菊地 賢治，
鶴長 文憲，日高 正人，田中 利和，末廣 多恵子
（傍聴者）3名（敬称略）

主な議事内容を以下に示す。

（1）第 8 回検討委員会の議事要旨の確認について

事務局より、第 8 回検討委員会の議事要旨の内容について説明を行い、承認された。

（2）第 9 回作業部会の議事要旨の確認について

事務局より、第 9 回作業部会の議事要旨の内容について説明を行い、承認された。

（3）議事

1) 調査結果報告について

事務局より、調査結果報告の内容について説明を行い、下記の質問、意見について議論がなされた。

- ・ 水温のデータはどの程度であったか？

⇒ 調査結果資料に水温のデータも追加し、次回報告する。

- ・ どぜうの会のデータとの正誤性はあるか？

⇒ 現場で同様にデータを測定していたが、若干の機械誤差はあるものの、ほぼ同程度の値が得られた。

- ・ このモニタリング結果から、何がいえるのであろうか？重金属が多いのかどうか、地下水が有害なのかどうか分かるのであろうか？

- ・ 対照地区の井戸の選定は正しかったのか？対照地区は処分場の影響を受けない地点と言えるか？

⇒ 周辺地下水のモニタリングは、処分場下流の地下水について、対照地区の地下水質とヒストグラムの形状を比較することにより、処分場の影響を受けているかどうかを調べるためのものであり、有害物質や重金属が含まれているかどうかを直接的に調べるものではない。

⇒ 周辺地下水の地下水質のヒストグラムの形状は、処分場内部の地下水とは大きく異なり、対照地区の地下水と類似することから、周辺地下水は処分場の影響は受けていないと考えられる。

⇒ 対照地区は、既往資料における広域的な地下水の流れの上流側にあり、地形的にも処分場のある流域とは異なる。処分場の影響を受けない地点として、本委員会の中で検討し、選定された。

・ 各井戸の深さはDS2層なのだろうか？DS1層なのだろうか？

⇒ 周辺地下水の井戸はDS2層よりも深い深度まで掘っているものが多い。取水している深度は調べることができないが、恐らく、深いところの地下水を取っている井戸が多いと考えられる。

2) モニタリング計画

事務局より、モニタリング計画の内容について説明を行い、下記の質問、意見について議論がなされた。

・ 来年度以降の工事の具体的な手順はどのように考えているか？

⇒ H21, 22年度に下記の工事を行なう。ただし、土の集まり具合によって変更する可能性はある。

- ・池の辺地区の外周水路の設置、覆土工事
- ・峠谷地区の調整池の浚渫土工事、仮排水路の設置

・ 工事計画が完成するのと、委員会が終わる関係はどうなるのか？

⇒ 委員会は今年度末までである。その中で、工事についての基本的な考え方が出される。市はそれをもとに、工事計画を定め実施する。実際に覆土工事を実施していくに当たっては、説明会等を開く。

・ 前回の委員会で指摘のあった、仮置きをした土の搬出場所の「土地の履歴調査結果」が提示された。

⇒ 西暦と元号があっていない箇所については、確認する。

3) 検討委員会報告書の作成に当たっての確認事項

事務局より、検討委員会報告書の作成について確認を行い、下記の質問、意見について議論がなされた。

・ 事務局とは市をさしているのか、コンサルをさしているのか？

⇒ 市は事務局であるが、コンサルに対して、調査、委員会の補助を行うということで委託している。コンサルは委員会の求めに応じて、資料や案を提示している。

・ 地域によって対応に不平等があってはいけない。誰に対しても安全安心な処分場を目指して欲しい。万が一でも安全を損なうようなことがあってはならない。

・ 下流側の住民を考慮して木を植えて欲しい。

⇒ 委員会の目的としては、工事の大きな方針を出すことである。具体的な工事内容については、本委員会では検討できない。今後説明会等で意見を出して欲しい。

- ・ スケジュール案について、「報告書作成→住民報告会→報告書を市長に提出」の順序となっているが、「報告書作成→報告書を市長に提出→住民報告会」というのが正しいやり方ではないだろうか。この際、住民報告会は市が行うか、もしくは市と委員会の共催で行うべきである。
- ・ 現在のスケジュールの場合、住民説明会後に住民の意見を踏まえて、検討委員会をやるべきでないだろうか？
- ・ 委員はそもそも住民の代表であるので、委員会が責任を持って報告書をつくりあげるべきである。よって、委員会、報告書、報告の流れは事務局案でよいと思う。
- ・ 旧埋立地については、「章を改め、今回の調査で把握できた事項のみを記述し、今後の課題等について言及する」、とあるが、これでよいか？
- ・ 旧埋立地については、調査データが少ないため、本年度の調査で把握できた事項のみを記述し、今後の課題としてきちんと言及すべきである。
- ・ それぞれの項目の後に、簡単なまとめ（2～3行程度）を作してほしい。

4) 次年度以降のチェック体制について

次年度以降のチェック体制について、下記の議論がなされた。

- ・ 前回作業部会でも出されたが、今後、モニタリング結果が出た際に、データをチェックし、問題があれば改善する仕組みが必要である。例えば、バイオアッセイの試行などはデータをみる際に専門的な知識をもった専門家の解説が必要である。
- ・ 報告書の章立てに4章を追加し、3章の対策を見守る体制などの提案事項として記述することとしてはどうか？
- ・ 何か問題が起きた際に、梶山委員長のような専門家など第三者の方も入ってもらい評価ができる仕組みを具体的に提案して欲しい。

⇒ 梶山委員長にたたき台を作ってください、次回作業部会、検討委員会にはかる。

5) 今後のスケジュール

後日、本日欠席の関口作業部会長と日程を確認し、決定とする。

①第10回作業部会 ; 2月23日(月) 18:00開催

②第10回検討委員会 ; 3月13日(金) 18:00開催

以上